

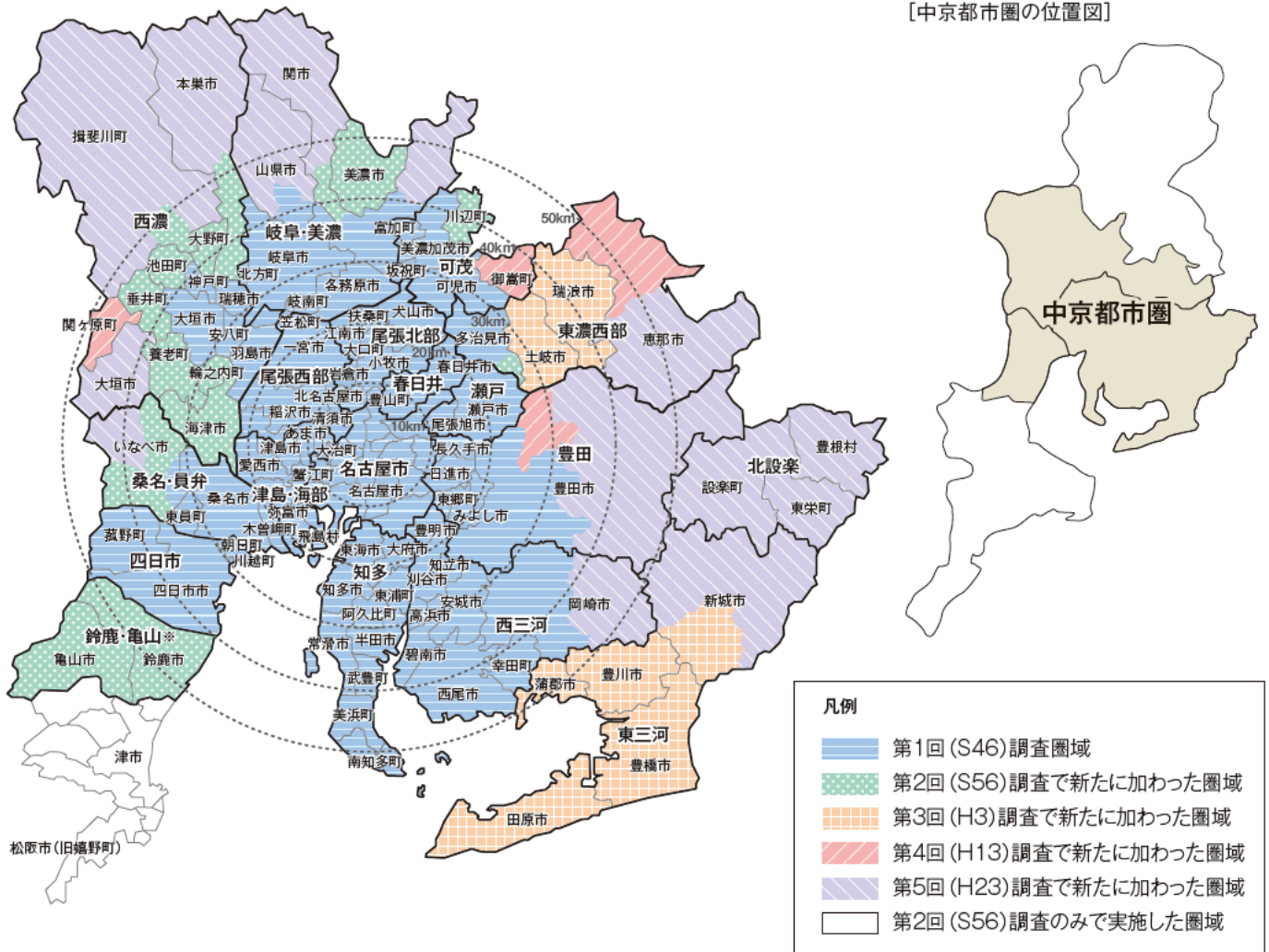
パーソントリップ調査とは

- パーソントリップ調査(パーソン=人、トリップ=動き)は、「どのような人が」「いつ」「何の目的で」「どこから」「どこへ」「どのような交通手段で」動いたかについて調査し、1日のすべての動きを捉えるものです。
- パーソントリップ調査は、都市圏の人の移動を総合的に把握する唯一の調査となっており、都市計画、交通、防災、環境などさまざまな分野で活用されています。
- この調査データをもとに、中京都市圏における望ましい交通のあり方などを検討してまいります。
- 中京都市圏パーソントリップ調査は、これまでに昭和46年、昭和56年、平成3年、平成13年と10年ごとに4回の調査を実施しており、今回第5回目(平成23年)の調査を実施しました。

調査の圏域

愛知県、岐阜県、三重県の96市町村を調査の対象圏域としています。

[中京都市圏の位置図]



※鈴鹿・亀山地域は第3回調査圏域には含まれていません。

調査の対象者

中京都市圏にお住まいの方の中から無作為に選ばれた約45万世帯の方(5歳以上)を対象とさせていただきました。調査の対象者は市町村の協力により住民基本台帳から抽出しました。

調査時期

平日調査は平成23年10月～11月の平日、日曜日調査は同じ期間の日曜日のいずれかの1日の調査です。なお、日曜日調査は愛知県(名古屋市含む)のみではじめて実施しました。

調査方法

調査票を郵送配布・回収する方式により実施しました。

回収結果

大変多くの方々から協力していただき、約31万人の方から調査票を返送していただきました。

パーソントリップ調査でわかること



調査結果の留意事項

- ① 中京都市圏内にお住まいの方を対象とした調査のため、中京都市圏外にお住まいの方が行う中京都市圏内の移動は把握していません。
- ② 目的地に向かう途中での立ち寄りや電車、バス、タクシーなど乗務員としての移動等は把握していません。
- ③ パースントリップ調査はサンプル調査であり、中京都市圏にお住まいのすべての人から調査票を回収しているわけではありません。サンプル調査結果をもとに、母数の拡大作業など統計的な処理を行い、中京都市圏にお住まいのすべての人の動きを推定しています。
- ④ 本資料の中で、調査結果を過去の調査結果と比較しているグラフは、過去の調査圏域で再集計した結果であり、「第○回調査圏域での集計」と表しています。
- ⑤ 第4回調査までは訪問調査でしたが、今回調査より郵送配布・回収方法に変更となったため、回答内容が不明のサンプルが含まれています。

将来交通量の予測

- 交通需要の量的な変化を見通すための「四段階推計法」、交通需要の質的な変化(年齢や免許保有等の個人属性等の変化)も含めて見通すための「拡大係数付替え法」の2種類の手法で将来交通量を予測しました。
- 「四段階推計法」では、各年次の人口フレームと将来の交通ネットワークを前提条件として、四段階推計モデルによって交通量予測を行い、将来の状況を見通しています。
- 「拡大係数付替え法」では、人口フレームの拡大係数を付け替えることによって、性・年齢や免許保有状況などの個人情報を持したまま、将来の交通状況特性を把握しています。